

PETA(Philippine Educational Theater Association)の  
“Cultural Exchange Workshop”に参加して  
—タガログ語、日本語、そして英語—

吉田真理子 (津田塾大学)

発表者は、2013年8月18日～23日の6日間、フィリピンのニューマニラにおいてフィリピン教育演劇協会主催の文化交流ワークショップに参加することとなった。他の日本からの参加者のうち3人は発表者が教鞭をとる大学の学部生と大学院生、そして残る1人は、美術大学を卒業後小学校と中学校で美術を教える教師という異色の組み合わせであった。フィリピンからの参加者も5人であったが、いずれもお互いの母語について知識がないため、英語を共通語としながらも、タガログ語や日本語を織り交ぜながらお互いの文化を共有し、次第に心理的距離が縮まっていくワークショップとなった。

本発表では、まず PETA と発表者が教鞭をとる大学との連携について、その経緯を述べる。そして、このたびの6日間のワークショップで行われた内容はどのようなものであったか。その間、お互いの母語や文化を共有する場とタイミングをファシリテーターはどのように工夫をしていたのか。以上の3点をまず踏まえたうえで、日本において、2011年度から小学校高学年において英語活動が必修化されている現状に言及する。発表者は、現在大学4年ゼミで学生たちとともに近隣の公立小学校二校においてフィールドワークをおこなっている。ゼミ生たちは学習ボランティアとして担任のアシスタントという立場で、後期およそ6週間にわたって小学校五年生、六年生の英語活動の授業に入り、英語劇を小学生とともに創る活動をおこなっている。外国語として英語を学ぶ初心者の指導にあたっているゼミ担当者とゼミ生たちにとって、このたびの PETA の文化交流ワークショップで参考になることはなにか、第二言語習得の視点から考察する。